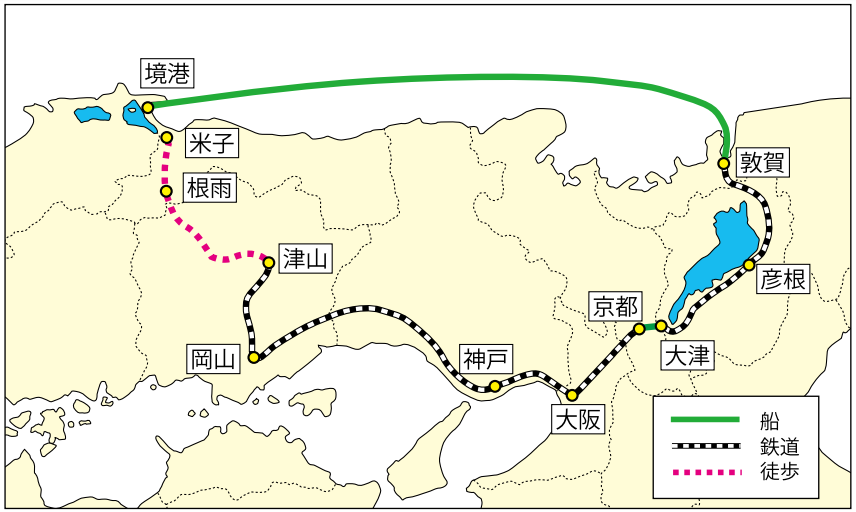
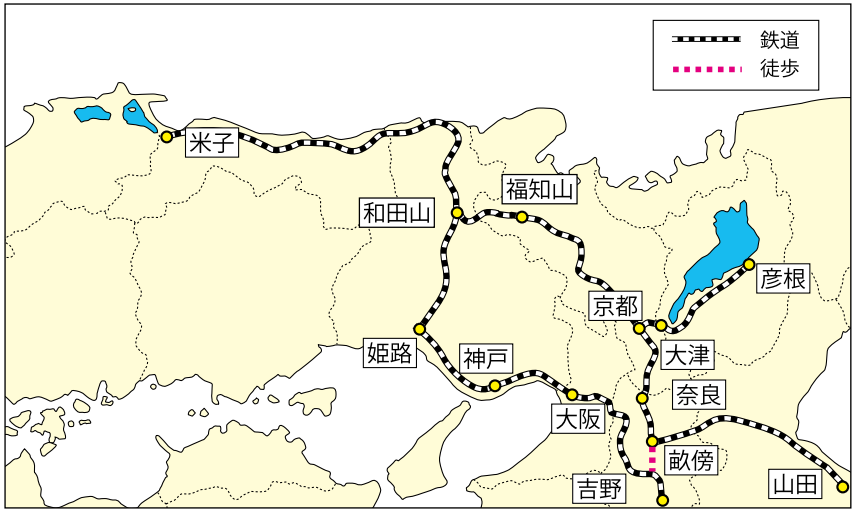
近代

第 14 章　近代の産業と生活　1. 近代産業の発展（1）鉄道と海運

鉄道開通と修学旅行



1903（明治36）年の米子中学の修学旅行の行程★



1912（明治45）年の米子中学の修学旅行の行程★

※上記の地図の鉄道路線は修学旅行が利用したもの以外は省略している。

解説

鉄道の開通によって、鳥取県内の修学旅行の旅程は大きく変わった。米子中学校（現・米子東高等学校）の学校誌から、その変化を見てみよう。

〈1903（明治36）年：福井・滋賀・京都・大阪・兵庫・岡山〉

大阪市天王寺で開催された第5回内国勧業博覧会の見学を主目的に、4・5年生が参加した。この時、鳥取県内に鉄道は「境 - 御来屋（みくりや）」間（1902年開業）しか運行していなかったため、往路は境港から船で出発し、復路は津山から米子までの約100キロメートルを歩いて移動しなければならなかった。

〈1日目〉　境港→（船で敦賀へ：船中泊）
〈2日目〉　敦賀〈気比神社〉→（鉄道）→彦根
〈3日目〉　彦根→（鉄道）→大津 →（疏水を船で進む）→京都
〈4日目以降〉京都→大阪〈博覧会〉→神戸〈湊川神社〉→兵庫→（鉄道）
→ 岡山〈後楽園〉→（鉄道）→津山→（徒歩）→米子
＊4日目以降の旅程の詳細は不明だが、神戸ないし兵庫で一泊したと思われる。また、岡山か津山で一泊。津山-米子間で二泊したか。

〈1912（明治45）年：京都・滋賀・奈良・三重・大阪・兵庫〉

山陰線「京都 - 出雲今市（いずもいまいち）（現・出雲市）」間の開通（1912年3月1日）間もない 3月25日から、10泊11日の近畿地方を巡る修学旅行を行った。奈良県の畝傍（うねび）から吉野まで徒歩で移動した以外は、全て鉄道に乗車した。

〈1日目〉　米子→福知山→京都
〈2～4日目〉京都・近江路見物（京都泊）
〈5日目〉　京都→山田〈伊勢神宮〉
〈6日目〉　山田→奈良〈春日神社・東大寺・興福寺〉
〈7日目〉　奈良→畝傍（橿原神宮）→（徒歩）→多武峰 →吉野
〈8日目〉　吉野→大阪
〈9日目〉　大阪見物
〈10日目〉　大阪→神戸〈湊川神社〉→ 明石
〈11日目〉　明石→姫路→和田山→米子

鉄道開通によって修学旅行の訪問範囲は拡大し、移動時間は大幅に短縮された。鉄道は、明治の人々の活動範囲を大きく広げたのである。

（担当：石田敏紀）

参考資料

・石田敏紀『鳥取県史ブックレット 24　鳥取県の鉄道敷設運動―山陰線の開通―』（2023年）

★の図は教育活動以外での無断利用や転載を禁止します。